

學會彙報

○昭和四十一年度漢文學會總會

〔漢文教育研究會〕 六月二十五日（土）於郡立九段高校

一、研究授業

第三學年漢文〔司馬遷「刎頸之交」〕（講談社版）

實施者 田部井文雄氏

二、研究會

第一部

司會 青木 委員
九段高校長 小川 定膳氏

(イ) 當番校挨拶

(ロ) 教授者説明

(ハ) 質疑應答

第二部

司會 志賀 委員
渡邊弘一郎氏

研究發表 子規の「木屑録評」

〔研究發表會〕 六月二十六日（日）於東京教育大學

司會 小島、横山、大久保、巨勢委員

一、「固窮の節」の展開について

一、瞿秋白と魯迅

一、晩清の歴史小説

一、漢文學習指導上の論點

一、鄧中夏について

一、堯佐とその小説

一、蘆東山の思想

新潟南高 大橋 定雄氏
豐島高 木村郁二郎氏
新潟高 内山 知也氏
群馬高専 水澤 利忠氏

一、中古漢語の疑問文

教育大學 牛島 徳次氏

〔總會〕

司會 田部井 委員

一、開會の辭

一、議長選出（水澤利忠氏）

一、委員長挨拶

一、報告並に議事

小林 委員長

(1) 報告

(イ) 庶務報告

(ロ) 研究一部報告

(ハ) 研究二部報告

青木 委員

鈴木 委員

今井 委員

(2) 議事

(イ) 昭和四十年年度收支決算

(ロ) 昭和四十一年度豫算

(ハ) 委員改選 一般會員より四名（上原、水澤、青木、田部井）當選

志賀 委員

志賀 委員

田部井 委員

一、閉會の辭

〔懇親會〕

司會 志賀、青木委員

○講演會

昭和四十一年十一月十九日（土）午後二時 於東京教育大學
「中國文化界の動向」

早稻田大學教授 安藤彦太郎氏

○昭和四十一年度月例會

○五月七日(土) 例會

一、現代中國哲學的方向と問題

一、中國文字改革運動略史

○十月二十二日(土) 擴大例會

一、新中國の現實と文化大革命(スライド併用)

本學助教 鈴木 修次氏

(三) 專門教育科目

伊藤 講師 〃 二 (講讀)
〃 三 (上級)

小林 教授 中國哲學概論

鎌田 教授 中國思想史演習 (論語集註)

〃 中國思想史演習 (左傳)

〃 中國思想史演習 (詩經)

〃 中國言語學演習 (老莊)

牛島 教授 中國言語學概論

鈴木 助教 中國文學演習 (宋詞)

〃 中國文學演習 (杜甫)

〃 中國思想史

今井 助教 日本漢文學演習 (五山文學)

〃 中國文學演習 (現代文學)

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

〃 中國言語學演習

○昭和四十二年度漢文學關係講義一覽

(一) 一般教育科目

小林 教授 漢文學講讀 (文學)

今井 助教 〃 (思想)

田中 講師 インド文學

(二) 外國語科目

牛島 教授 中國語 (文法)

〃 〃 (〃)

〃 〃 (會話)

〃 〃 (作文)

〃 〃 (文法・作文)

〃 〃 (〃)

〃 〃 (讀本)

〃 〃 (講讀)

〃 〃 (讀本)

〃 〃 (讀本)

(四)

小林 教授 中國思想史 (尚書注疏講讀)

- 鎌田 教授 (春秋學講義)
 牛島 教授 中國言語學講讀 (古代漢語)
 鈴木 助教授 中國文學 (唐詩の綜合的研究)
 今井 助教授 中國思想史 (易學象數論)
 松本 助教授 中國言語學講義

○紀要論文

「滄浪詩話の研究」(四一・三・二五) 横山 伊勢雄

○修士論文

「晚清小説小史」 宮内 保
 「大衆語運動研究—國語ローマ字とラテン化新文字—」 松尾 善弘
 「陳子昂研究」 林 銀

○昭和四十一年度學部卒業論文題目

一、謝靈運論 石井 かつ子
 一、魯迅論—野草を中心として— 大河 原皓視
 一、李賀試論 小野 恵子
 一、三國演義研究 加藤 尚子
 一、李商隱論 糟谷 一
 一、韓偓について 川島 忠生
 一、陳子昂研究 栗原 姚子
 一、「管子」研究 兒玉 公彦

- 一、楊子法言の研究 杉田 進
 一、杜荀鶴研究 菅野 眞彦
 一、紅樓夢研究 町田 義春
 一、論語に於ける仁について 松延 美枝子
 一、孟子の學 松原 憲敏
 一、韓非の法思想 若林 治尙

次號原稿募集

左記により次號第二十七號の原稿を募集いたします。ふる
つて御應募下さい。

- 一、締切 昭和四十三年一月末日
 一、枚數 四百字詰原稿用紙三十枚以内
 一、採否 委員會に御一任下さい

朱子語類

宋黎靖德編

國立中央圖書館藏影印 正中書局發行
B 6 精裝本全八冊 六、二〇〇圓

宋朝大詔令集

國立中央圖書館藏影印 正中書局發行

B 5 線裝本全十六冊 一三、二〇〇圓

中文大辭典

高明、林尹、主編 中國文化研究所出版

B 5 精裝本全三十冊 六〇、〇〇〇圓

直輸入

中國書籍センター
在庫品種類全

東京都千代田區神田神保町一丁目五六番地

株式會社

海風書店

電話東京 二九一四三四番
振替口座 東京 五三一三二番

東京教育大學教授・文博 小林信明著

定價三〇〇圓

漢文研究法

刊行以來十年、版を重ねること數十、つねに讀者の懇篤的な信頼と先生方の絶えざる支持を得た本格的參考書である。基礎編と理解編の二編より成り、基礎編ではもつぱら語法を中心とし、理解編では知識の整理にウエイトを置く。著者獨得のヒラメキと鋭さが全頁を貫き、本書の價値をいやが上にも高める。

都立井草高校教諭 山本哲夫著 定價三〇〇圓

古典漢文の基礎

漢文の基礎から入試程度まで、現場の経験を最大限に活かして書かれたもの。第一編で古典漢文の基礎知識、第二編で古典漢文の問題研究、第三編で古典漢文の總まとめを扱う。スキのない構成、非凡な表現、適切な内容。文字通り、讀者の渴望に應えた本である。

東京教育大學教授・文博

小西 甚一

古文研究法

- ☐ 萬人が認める最高の古文研究書である。
- ☐ 獨得の構成とユーモアをまじえた表現は群を抜いている。
- ☐ 最少の努力で最大の効果があらがるよう工夫されている。

(B6 488頁 ¥ 400)

東京教育大學教授・文博

小西 甚一

國文法ちかみち

(B6 342頁 ¥ 300)

佐伯梅友先生評——だれでもほほえみながら作業にかかれて、指定のとおりまじめにやれば、やがて卒業する。暗記を求めめるのではなくて、消化を求める。こういう學習指導はすばらしい。小西氏のこんなと出された「國文法ちかみち」は、そういう指導の本だ。

東京都新宿區喜久井町34 洛陽社 電話東京 (203) 5479

新刊

國立北平圖書館館刊

第一卷第一號(民17)至第十一卷一號(民26終刊號)

影印 臺灣學生書局刊 精裝B 5 十冊 六〇、〇〇〇

國立北京大學國學季刊

第一卷第一號(民12)至第六卷二號(民26終刊號)

影印 臺灣・學生書局刊 精裝B 5 六冊 二八、八〇〇

說文解字詁林及補遺 丁福保編

影印 臺灣・商務印書館刊

精裝A 5 十二冊 二一、〇〇〇

東京都千代田區神田神保町二丁目七番地

有限會社 山本書店

電話 東京 (261) 〇八四七番
九三三七番
振替東京五九九五〇番

文學博士 龍保孝著

北宋に於ける儒學の展開

定價 四、〇〇〇圓

第一章

北宋儒學の史的展開の概要

第二章

宋初に於ける學術新興の氣運

第三章

宋初に於ける道釋兩教

第四章

宋初に於ける經學上の諸問題

第五章

北宋に於ける正學の成立

第六章

北宋に於ける實學の伸張(上)
胡瑗、孫復、石介、苑仲淹、尹洙、陳襄

第七章

北宋に於ける實學の伸張(下)
韓琦、富弼、文彥博、歐陽修

第八章

北宋に於ける義理の講説
司馬光、王安石

本書は著者の學位論文であり、從來、北宋の政治家として取扱はれた范文正公・韓魏公・富文忠公・文潯公・司馬溫公・王荆公などを當世の儒人・思想家として見直したものである。套新の採取が豊富に歴史手集の四部に亘つてあることと治學考證學の成果を宋代儒學の研究に活用してあることは、一般宋學關係學術書に見られない本書の特色である。此の意味で特に廣く江湖に讀まれることを期待する。

唐詩三百首

清 蘅塘退士編B 6 刊 定價三八〇圓

唐詩三百首に重なる名詩を詩賦・格調にかたよらず網羅し、中國に於ては「唐詩選」よりよく詠まれたのが本書である。

講求の便をはかつて、巻次を絶句・律詩・古詩の順に改め、返點を施し、作者小傳を附した。大學、高校における唐詩讀誦に適切なテキストである。

發行所

株式會社 書籍文物流通會

東京都文京區湯島一―四一二五
電話 四六〇六・四六一七・四六一七
振替東京二一九九六番

中國通信

安藤彦太郎著

好評三版

A 5

九〇〇圓

中國文學雜考

小野忍著

B 6

九八〇圓

わが半生

「滿州國」皇帝の自傳——上下各四八〇圓

愛新覺羅・溥儀著

新島淳良・丸山昇共譯

内野博士選曆記念 東洋學論集

漢魏文化研究會編 A 5 二〇〇〇圓

目加田博士選曆記念 中國學論集

同刊行會編 A 5 二〇〇〇圓

大戴禮索引

鈴木隆一編

A 5

一〇〇〇圓

國語索引

鈴木隆一編

B 5

一二〇〇圓

三代吉金文存器影參照目錄

附小校經閣金文拓本目錄 林己奈夫編

A 5

一四〇〇圓

近代中國の思想と文學

東京大學文學部
中國文學研究室編

B 6 (豫) 一二〇〇圓

中國關係圖書專門

大

安

だいあん

本社：東京都千代田區神田神保町二の十四

電話(二六五)〇二一振替東京一九二六一

出張所：大阪市天王寺區上本町七の七〇

電話(七七)四一七六振替大阪一八三七五

京都市左京區川端通丸太町下ル下堤

電話(七七)〇三〇二一振替京都六三三

對校十三史食貨史

附：清史稿食貨史

中島 敏監修

本書は、二十四史の諸版本のうち代表的版本である武英殿版の食貨部門十三史を影印して底本とし、百衲本をもつて文字の異同を檢證したうえ、關外本(五百二十九卷)清史稿食貨史を加えた。これによつて中國二千年の財政・經濟史を總合的・系統的に見ることが出来る。

B 5 上製函入 二九〇〇圓

五體清文鑑譯解

田村實造・今西春秋・佐藤長 共編

京都大學內陸アジア研究所刊

五體清文鑑は中國言語學史上の金字塔であるのみならず、歷史學の分野でもきわめて貴重な素材を提供しているが、特殊言語のゆゑに利用される範圍ががざられていた。しかし本書「五體清文鑑譯解」上巻(滿州・チベツト・モンゴル・ウイグルの四字體をそれぞれローマ字に轉寫、日本語譯を付す)下巻(總索引)の完成によつて、從來の障害を克服し廣く世界に便宜を供しうるのである。

上巻 B 5 判上製函入 一八〇〇〇圓
下巻 本年五月刊 豫價 六五〇〇圓

東京都千代田區神田神保町二の二
振替口座東京一〇〇〇〇九番

極東書店

春秋左氏傳舊注疏證上・下冊

太平書局 2・800圓

中國五千年大事記 增訂本

光華書店 250圓

孫中山選集

中華書局 1・600圓

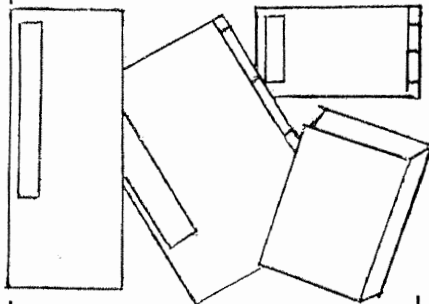
中國圖書專門 內山書店

千代田區神田一ツ橋2〜3

TEL (233) 5 5 6 1〜3

振替口座 東京 116786

和 漢 古書籍賣買



松雲堂書店

東京都千代田區神田神保町3〜1

電話・東京 九段 6 4 9 8

近代文学注釈大系

内容見本屋

芥川龍之介 吉田精一 著 近代評論 増渕恒吉 著 七〇円	増渕・小海著 現代国語の総合研究 完成 三〇〇円	稲村 徳著 古典文の研究 完成 三〇〇円	入試 古典文研究法 石田 博著 完成 三〇〇円	中心 古典文研究法 三谷栄一・野村嗣男著 完成 三〇〇円	増渕・小海著 現代国語の総合研究 完成 三〇〇円	稲村 徳著 古典文の研究 完成 三〇〇円	文学博士 内野熊一郎著 完成 三〇〇円	文学博士 山岸 徳平著 完成 三〇〇円	文学博士 石田 博著 完成 三〇〇円	文学博士 緒形 暢夫著 完成 三〇〇円	文学博士 山梨女子短大助教授 今井宇三郎著 完成 三〇〇円	文学博士 東京教育大助教授 論語・孟子要解 三〇〇円
夏目漱石 吉田精一 著 近代俳句 楠本憲吉 著 七〇円	石川啄木 岩城之徳 著 完成 三〇〇円	夏目漱石 吉田精一 著 近代俳句 楠本憲吉 著 七〇円	石川啄木 岩城之徳 著 完成 三〇〇円	夏目漱石 吉田精一 著 近代俳句 楠本憲吉 著 七〇円	石川啄木 岩城之徳 著 完成 三〇〇円	夏目漱石 吉田精一 著 近代俳句 楠本憲吉 著 七〇円	石川啄木 岩城之徳 著 完成 三〇〇円	夏目漱石 吉田精一 著 近代俳句 楠本憲吉 著 七〇円	石川啄木 岩城之徳 著 完成 三〇〇円	夏目漱石 吉田精一 著 近代俳句 楠本憲吉 著 七〇円	石川啄木 岩城之徳 著 完成 三〇〇円	夏目漱石 吉田精一 著 近代俳句 楠本憲吉 著 七〇円

続刊―近代短歌―夏目漱石(一)
樋口一葉・斎藤茂吉他

東京 神保町1の39
振替 4 0 6 8 4

有 精 堂

注目を集めた大修館の辞典・専門書

新漢和辞典



新漢和辞典 改訂版

諸橋轍次他三氏著

大漢和辞典全13巻を基に編集した学生・社会人待望の書。収録漢字8千、熟語数5万余は優に中辞典に匹敵し、解説は類書に見られぬ程的確、詳細。熟語の配列、読み方など新しい工夫を施した決定版。 B6判・1216頁・定価 880円

基本古語辞典

小西甚一著

古語の学習はかくあるべしという著者の持論を具体化した辞典!! 基本古語約6千を科学的に選定し頻度数に基づく5段階のグレード設定をするなど従来の古語辞典の概念を大きくかえた力作。ポケット判・580頁・定価 380円

●古代漢語文法を初めて体系的に解明した

《新刊》

漢語文法論(古代編)

A5判 450頁

上製・函入

定価 2400円

東京教育大学助教授 牛島徳次著

漢代の生きた“ことば”といわれる史記50万語の膨大な資料を駆使し、漢書を補助資料として、古代漢語の文法体系を明らかにした画期的研究。「文の基本構造」「詞と句」「文」の3編からなり、用例はすべて訳文つき。

●漢魏詩に関する初めての総合的叙述!!

《新刊》

漢魏詩の研究

A5判 728頁

上製・函入

定価 4500円

東京教育大学助教授 鈴木修次著

現存の求めうる資料を網羅し漢魏詩の範囲を決定、これに即して、漢代貴族社会の詩、民間詩歌、民間歌曲の基本的な諸問題をそれぞれ解明し、更にそれらの上に展開した建安詩の性格、価値について詳述した。



東京都千代田区神田錦町3-26
振替番号 東京 40504番

大修館書店

○東京教育大學漢文學會々則

後記

一、本會は東京教育大學漢文學會と稱し、事務所を東京教育大學漢文學研究室に置く。

二、本會は漢文學及び漢文教育の研究と普及とを圖るのが目的である。

三、本會の會員は左の通りである。

- 1 東京教育大學漢文學・東洋文學及び東京文理科大学、東京高等師範學校の漢文學關係教育（退官者を含む）
- 2 東京教育大學漢文學大學院中國古典學專攻學生及び卒業生、並に東京文理科大学漢文學・東京教育大學東洋文學專攻卒業生
- 3 その他入會を希望する者

四、本會の主な事業は左の通りである。

- 1 總會 年一回
- 2 例會 年約七回
- 3 會報及び會員名簿の發行
- 4 その他必要な事項

五、本會の役員は左の通りである。

委員長 一名
委員 若干名

六、委員長は本會を代表し委員とともに運営に當る。

委員は本會の研究・庶務・會計を分擔する。

七、委員長は委員の互選による。

委員は東京教育大學學部學生中から四名、大學院學生から二名、專任教官から三名、一般會員から四名をそれぞれの互選によつて選出する。その任期は二年（學生委員は一年）とする。但し兼任は差し支えない。

八、會員は會費年額六百圓、（但し學生は半額）を納める。

九、本會會則の變更は委員會の審議を経て、總會出席者の過半数の承認を得なければならない。

○昨年に引き続き、本年も會報を發行することができましたのは、會員諸氏が各方面から御協力下さつた賜物であります。今後とも益々學會發展のために一層の御協力をお願いいたします。

○本年も幸にして、都内の共立社で印刷することができましたので、萬事好都合でした。殊に正字が自由に使えてうれしい。發行の期日も嚴守してくれました。ここに共立社に對しまして深甚の謝意を表します。

（横山）

漢文學會々報第廿六號

昭和四十二年六月十日 印刷
昭和四十二年六月十五日 發行

（非賣品）

東京教育大學漢文學會

編輯者

水澤 利忠
横山 伊勢雄

印刷所

東京都千代田區神田神保町三ノ二〇
株式會社 共立社印刷所
電話 二〇二八

發行所

東京都文京區大塚三一廿九一
東京教育大學漢文學會
振替東京四七六〇〇番